

資源株ファンド 通貨選択シリーズ
<ブラジルリアル・コース> <南アフリカランド・コース> <オーストラリアドル・コース> <米ドル・コース>
(毎月分配型)

足元の基準価額下落と今後の見通しについて

2015年後半以降、資源関連株式(以下、資源株)および資源国通貨は、資源需要の低下懸念や投資家のリスク回避の動きなどから、厳しい環境が続いてきました。こうしたなか、当ファンドの基準価額も市場の下落圧力に押される展開となり、資源国通貨の運用を行なうコースを中心に下落が大きくなりました。

本レポートでは、当ファンドを取り巻く投資環境をご説明するとともに、資源株および資源国通貨の今後の見通しなどについて、当ファンドの実質的な運用を担当する日興アセットマネジメント アメリカズ・インクのファンド・マネージャーのコメントをご紹介します。



日興アセットマネジメント アメリカズ・インク
シニア・ポートフォリオ・マネージャー
ダニエル・フォーギー

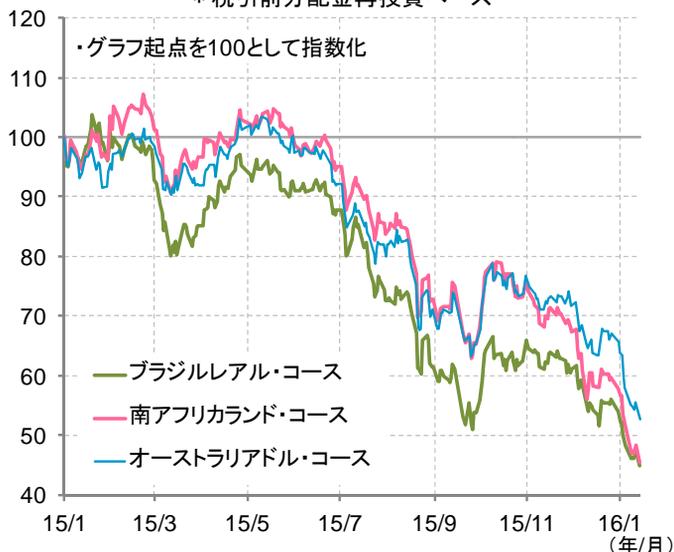
2015年後半以降、下落基調となった基準価額

足元の厳しい相場環境下、当ファンドの資源株部分においては、キャッシュフローや配当余力などに着目しながら、強固な事業基盤や低コスト体質などを背景に、健全な長期成長が期待される銘柄を選好し、運用を行なっております。しかしながら、資源株、資源国通貨ともに値動きの荒い展開となったことから、当ファンドの基準価額も市場の下落圧力に押される展開となりました。

<米ドルコースの基準価額推移*>
(2015年1月初~2016年1月18日)
* 税引前分配金再投資ベース



<通貨運用を行なうコースの基準価額推移*>
(2015年1月初~2016年1月18日)
* 税引前分配金再投資ベース



※基準価額は、信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の値です。

※基準価額(税引前分配金再投資ベース)は、税引前分配金を再投資したもとして計算した理論上のものである点にご留意ください。

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

投資環境
について

供給過剰懸念に伴う資源安が、相場の重石に

■ 資源株

2015年半ば以降、原油価格などの資源価格下落が進むなか、資源株は値動きの荒い展開が続きました。原油価格は、①OPEC(石油輸出国機構)の生産姿勢の維持、イランへの経済制裁解除、シェール開発による米国での生産増などによる供給過剰懸念、②中国の景気減速に伴う需要の減速懸念の高まり、などを主な要因として、変動を強めることとなりました。また、12月に実施された米利上げに向けて米ドル高が進んだことも原油価格の上値を抑える要因となりました。

2016年に入ると、中国の景気減速懸念の再燃に伴う中国株の急落や地政学リスクの高まりに加え、米ガソリン在庫の予想外の増加による供給過剰懸念などが相次ぎ、原油価格の国際指標であるWTI(ウェスト・テキサス・インターメディアート)は足元で1バレル=30米ドルを下回り、2003年以来の水準まで下落しました。

こうしたなか、株式市場でも世界的に変動の高まる展開が続き、特に資源関連企業は、資源価格下落による収益圧迫懸念が強まったことから、株価下落が進むこととなりました。

■ 資源国通貨

外国為替市場では、米国の利上げ観測や資源価格の下落などが嫌気され、資源国通貨が総じて軟調な展開となりました。2015年9月中旬に米国で利上げが見送られると、一度は持ち直す場面もみられましたが、12月中旬に米利上げが実施されたことに加え、原油価格や株価の下落を背景に、投資家がリスク回避の動きを強めると、資源国通貨は再び下げに転じました。

なかでも、政治や財政、景気などへの懸念が続くブラジルや、12月中旬以降に閣僚人事の変更に伴う政局の混乱に見舞われた南アフリカの通貨が大きく売られました。
(各通貨の詳細については、後述をご参照ください。)

2015年初からの主要資産の推移

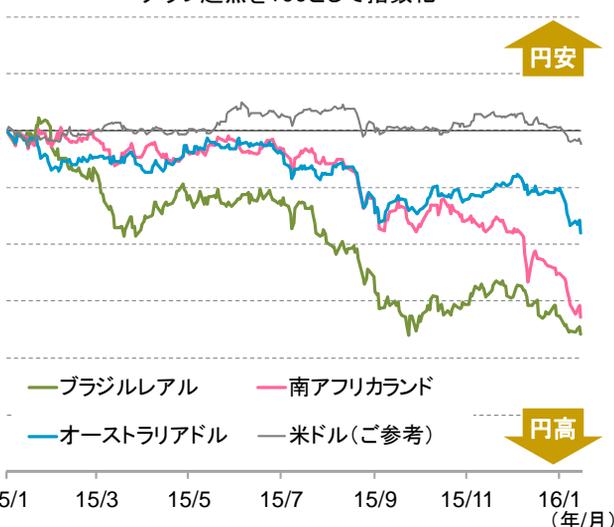
＜資源株と原油価格の推移(米ドルベース)＞

(2015年1月初～2016年1月15日)
株価はグラフ起点を100として指数化



＜為替(対円)の推移＞

(2015年1月初～2016年1月15日)
グラフ起点を100として指数化



資源株: S&Pグローバル・ナチュラル・リソース指数、世界株式: MSCI AC ワールド指数
※ 上記指数は、市況動向をご紹介するための参考指標であり、当ファンドのベンチマークではありません。

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

今後の見通し
〈資源株〉

足元の投資環境と今後の回復局面、両睨みでの銘柄選択を実施

【投資削減を進める資源関連企業】 資源の過剰供給解消には時間を要するとみられることから、資源関連企業を取り巻く環境は厳しさが増えています。こうしたなか、資源メジャーは2016年も人員削減や資産売却などの投資削減を大幅に進め、収益の確保と経営の健全性維持に努めています。また鉄鉱石については、価格が下落するなか、圧倒的な価格競争力を背景に、鉱業大手による寡占化が進んでいます。

【将来的には供給不足懸念も】 原油需要については、価格低下が押し上げ要因となって、市場の悲観に反して堅調な伸びを続けており、中国では2015年の原油輸入量が過去最高を更新しました。OPEC加盟国による供給増加は当面、価格の重石となるものの、米国の原油生産は緩やかながら減少傾向にあり、足元の1バレル=30米ドル台という価格水準では採算性が厳しいことなどから、米シェール生産の減少が進むとみられます。また、資源メジャーが進める投資削減の中には大型開発プロジェクトの停止も含まれていることから、将来的には原油や天然ガスが供給不足に陥る可能性もあり、これらを踏まえると、世界の需給バランスはいずれ健全な水準へ向かうとともに、原油価格の回復につながると期待されます。

【当ファンドの着眼点】 こうしたなか当ファンドでは、事業基盤や健全性、長期成長見通しなどに重点を置き、より質の良い資源関連銘柄を選別しています。特に足元では、配当利回りやキャッシュフロー、借入金依存度などの観点から健全性を見極め、不透明な市況環境を乗り切ることが見込める銘柄を選別しています。一方で、資源価格が低下している局面でも強い価格競争力を有し、将来の市況回復時にはいち早く設備投資の再開と生産増に取り組み、回復の恩恵を享受することが期待できる企業にも、長期的な観点から着目しています。

足元の資源関連株式は、業績悪化懸念や市場環境に対する投資家の警戒感などから、価格変動の高まる状況が続いています。しかしながら当ファンドでは、こうした環境こそが、売られ過ぎとなった銘柄を発掘する貴重な投資機会でもありと考えており、回復局面での恩恵を享受すべく、引き続き、企業ファンダメンタルズを見極め、銘柄選定を行なっております。

※ 当資料は、当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」を運用する日興アセットマネジメントアメリカズ・インクからのコメントなどをもとに、日興アセットマネジメントが作成しています。

投資削減を加速させる資源関連企業

〈主要資源関連企業が発表した投資削減計画〉
(2015年12月以降発表分、2016年1月15日現在)

シェブロン(米)	・2016年の投資額を前年比24%削減し266億ドル(約3.2兆円)に ・6,000~7,000人の人員削減
コノコフィリップス(米)	・2016年の投資額を前年比25%削減し77億ドル(約0.94兆円)に
BP(英)	・原油生産(上流)部門で2016年に4,000人の人員削減
ロイヤル・ダッチ／シェル(英蘭)	・2016年投資額を従来計画から20億ドル削減し330億ドル(約4兆円)に

各種報道などをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記は、全ての情報を網羅するものではありません。また、個別銘柄に言及していますが、当該銘柄の売買等を推奨するものでも、現在および将来の保有を約束するものでもありません。

※ 上記グラフ・データは過去のものおよび予想であり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ〈ブラジルリアル・コース〉〈南アフリカランド・コース〉〈オーストラリアドル・コース〉〈米ドル・コース〉(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

原油の需給バランスは改善に向かう見通し

〈原油の世界需給および価格の推移〉
(2010年1-3月期~2017年10-12月期予想)



今後の見通し
(通貨)

資源国通貨の現状と見通し①

以下に、軟調が目立つ資源国通貨のコースについて、通貨見通しをご紹介します。



ブラジル
レアル

政権の安定化や財政改善に向けた早急な対策が望まれる

- ブラジルでは厳しい経済状況が続いており、2015年7-9月期のGDP成長率は前年同期比▲4.5%となりました。資源価格の下落に伴う景気鈍化懸念に加え、汚職疑惑捜査が拡大して以降、現政権への不信感が高まっており、12月には、財政健全化路線をけん引してきた財務相が辞職するなど、不安定な状況が続いています。
- こうしたなか、中央銀行は2015年7月以降、政策金利を14.25%に据え置いています。足元で、商品市況が下落圧力に晒されていることや、高水準のインフレ率、財政支出の抑制が見込まれることなどを踏まえると、当面、景気後退が続くことも考えられます。
- 国内の財政・経済状況の悪化や米国の利上げは、ブラジルレアルへの下押し圧力として懸念される一方、足元の同国金利は資源国の中でも高い水準となっています。財政収支の黒字化ならびに黒字拡大への兆しがみられるようであれば、通貨は安定化に向かうことが期待されます。



南アフリカ
ランド

2015年7-9月期GDPはプラス成長となり、景気後退入りを回避

- 南アフリカでは、世界貿易の鈍化や資源価格下落による鉱業部門への影響、通貨安に伴う輸入物価の高騰などが、経済成長の重石となっています。また、米国での利上げ実施や、12月中旬には、財政再建に取り組んでいた財務相が突然解任され、短期間に二度の人事変更が行なわれたことなどが、通貨ランドの下押し圧力となりました。
- 2015年7-9月期GDPは前期比年率+0.7%となり、景気後退を免れました。しかし同国では、輸出競争力を高め、高止まりする失業率や経常赤字を改善することが課題となっています。また、高水準のインフレ率が続いており、中央銀行は経済成長を犠牲にしても利上げを行なうべきかという難しい選択を迫られるなか、7月と11月に利上げを実施しています。
- 混乱の末、最終的に着任した財務相は、過去に財務相経験があり、また今回、同国国債の「投資適格級」維持に向けて努力する姿勢を示したことなどは市場で安心材料となっており、財政健全化に向けた政府の取り組みが注目されます。



オーストラリア
ドル

緩和的な金融政策が維持されるなか、中国景気動向が焦点に

- 2015年7-9月期GDPは、輸出や個人消費などがけん引し、前期比+0.9%と堅実な伸びとなりました。オーストラリアでは、経済成長の軸足を資源セクターから国内サービス産業へ移行させつつあることから、資源価格下落によるインパクトの緩和が幾分期待されます。とはいえ、資源セクターの資本流入の減少が続くなか、中央銀行の緩和的な金融政策が、引き続きオーストラリアドルの対米ドルでの上値を抑える展開になるとみられます。
- 同国は、主要貿易相手国である中国の影響を大きく受けることから、中国景気の鈍化懸念はリスク要因と考えられますが、中国当局が進めようとしている景気下支え策の内容によっては、オーストラリア経済および通貨にも支援材料となることが期待されます。

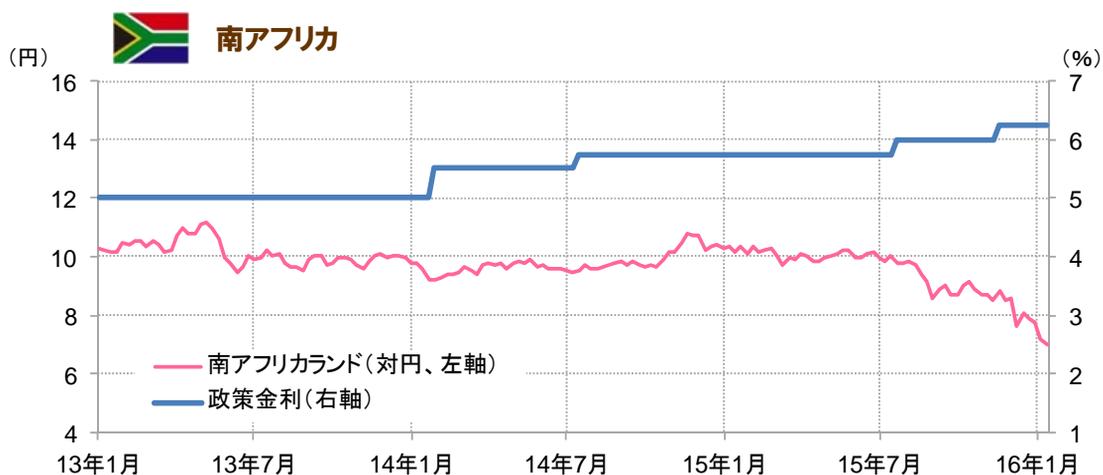
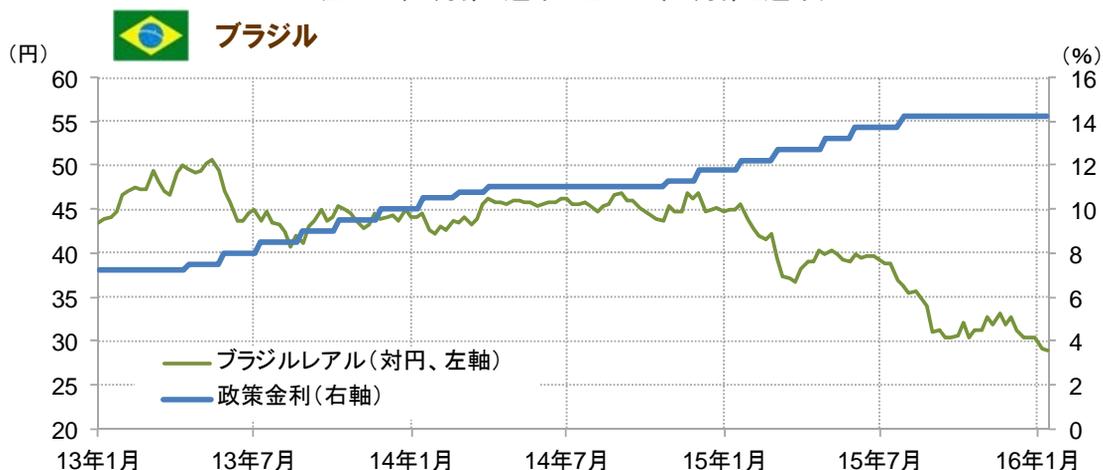
※ 当資料は、当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」を運用する日興アセットマネジメントアメリカズ・インクからのコメントなどをもとに、日興アセットマネジメントが作成しています。

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルレアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

資源国通貨の現状と見通し②

＜ご参考：為替(対円)と政策金利の推移＞
(2013年1月第1週末～2016年1月第2週末)



信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ〈ブラジルレアル・コース〉〈南アフリカランド・コース〉〈オーストラリアドル・コース〉〈米ドル・コース〉(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

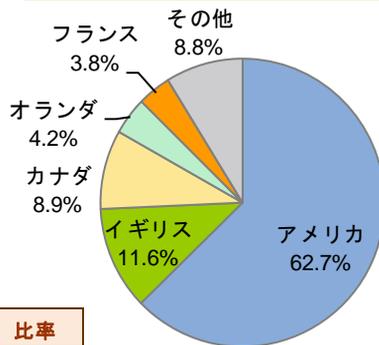
※以下は、当ファンドの主要投資対象である「ナチュラル・リソース・ファンド」のポートフォリオの内容です。

ポートフォリオ概要 (2015年12月末現在)

業種比率

業種	比率
エネルギー	52.2%
素材	41.8%
農業・食料	3.5%

国別株式組入比率



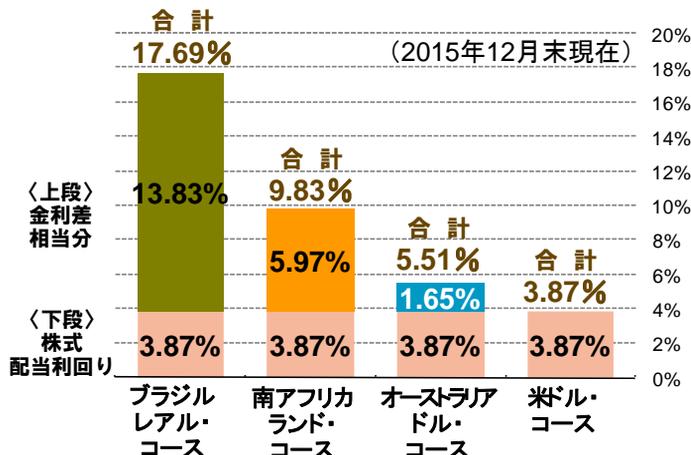
株式組入上位10銘柄

順位	銘柄名	国名	業種	比率
1	EXXON MOBIL CORP エクソンモービル	アメリカ	エネルギー	4.86%
2	ROYAL DUTCH SHELL-SPON ADR-A ロイヤル・ダッチ/シェル	オランダ	エネルギー	4.21%
3	TOTAL SA-SPON ADR トタル	フランス	エネルギー	3.81%
4	BHP BILLITON PLC-ADR BHPビルトン	イギリス	素材	3.78%
5	CHEVRON CORP シェブロン	アメリカ	エネルギー	3.67%
6	ARCHER-DANIELS-MIDLAND CO アーチャー・ダニエルズ・ミッドランド	アメリカ	農業・食料	3.47%
7	RIO TINTO PLC-SPON ADR リオ・ティント	イギリス	素材	3.44%
8	MONSANTO CO モンサント	アメリカ	素材	3.33%
9	INTERNATIONAL PAPER CO インターナショナル・ペーパー	アメリカ	素材	2.94%
10	BP PLC-SPONS ADR BP	イギリス	エネルギー	2.90%

【銘柄数：68銘柄】

※上記比率は、「ナチュラル・リソース・ファンド」の組入株式評価総額に対するものです。
※各数値は四捨五入処理をしておりますので、合計が100%にならない場合があります。

【ご参考】株式配当利回りと各通貨の金利差相当分



※金利差相当分：ブラジルリアル短期金利(CD(譲渡性預金証書)レート1ヵ月)、南アフリカランド短期金利(ヨハネスブルグ・インターバンク・アグリド・レート1ヵ月)、オーストラリアドル短期金利(1ヵ月物銀行手形金利)から、それぞれ米ドル金利(1ヵ月LIBOR)を差し引いて算出。
株式配当利回り：「ナチュラル・リソース・ファンド」の株式配当利回り
※各数値は四捨五入処理をしておりますので、それをを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
※金利差相当分は、各資源国通貨と米ドル間の金利差水準によっては為替取引によるコストとなり、運用成果にマイナスに働くこともあります。
※実際の運用においては、為替取引時の手数料相当額などが金利差相当分に加味されます。

日興アセットマネジメント アメリカズ・インクより提供された情報をもとに
日興アセットマネジメントが作成

※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

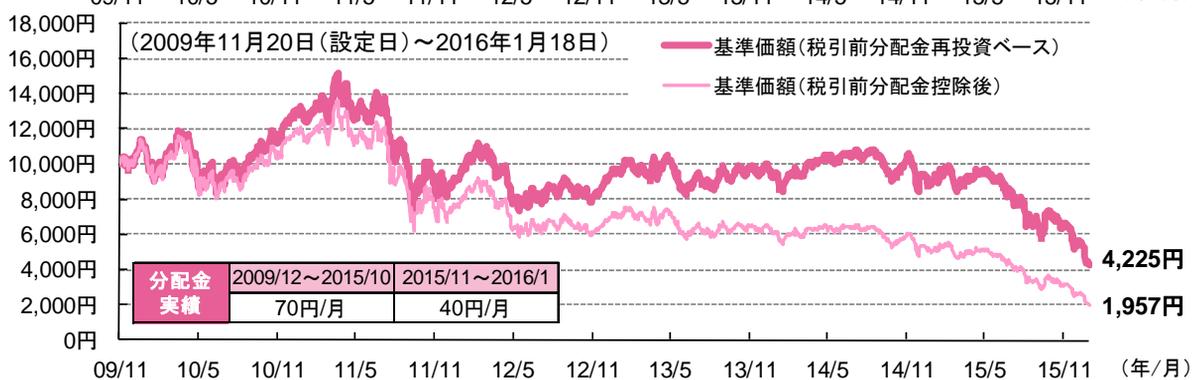
■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

基準価額と分配金の推移

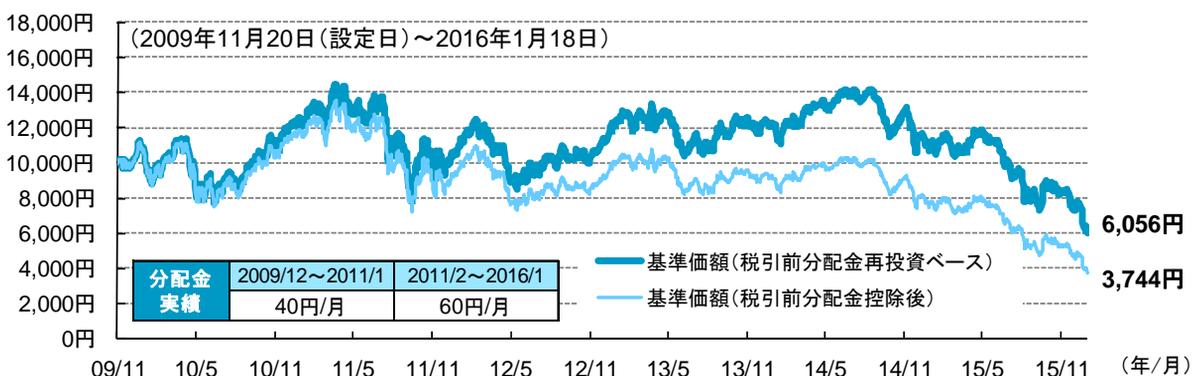
ブラジル
リアル・
コース



南アフリカ
ランド・
コース



オーストラリア
ドル・
コース



米ドル・
コース



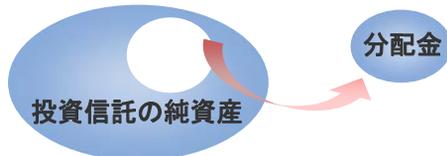
※ 上記グラフ・データは過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。
 ※ 基準価額は信託報酬(後述の「手数料等の概要」参照)控除後の、分配金は税引前の、それぞれ1万口当たりの値です。
 ※ 税引前分配金再投資ベースとは、税引前分配金を再投資したもとして計算した理論上のものであることにご留意ください。
 ※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行わない場合もあります。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

収益分配金に関する留意事項

- 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

投資信託で分配金が支払われるイメージ

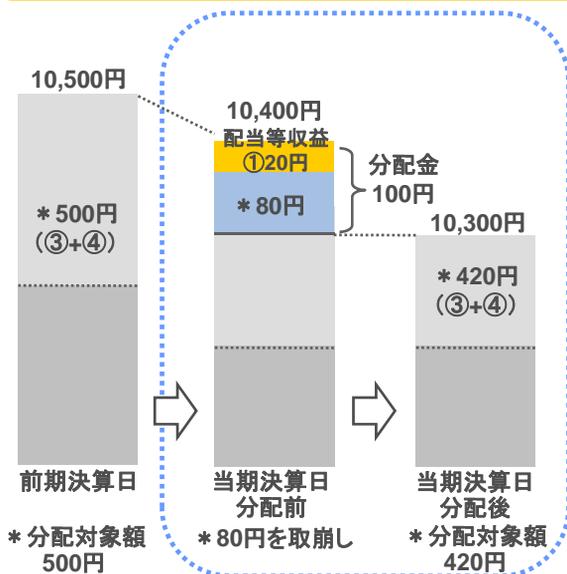
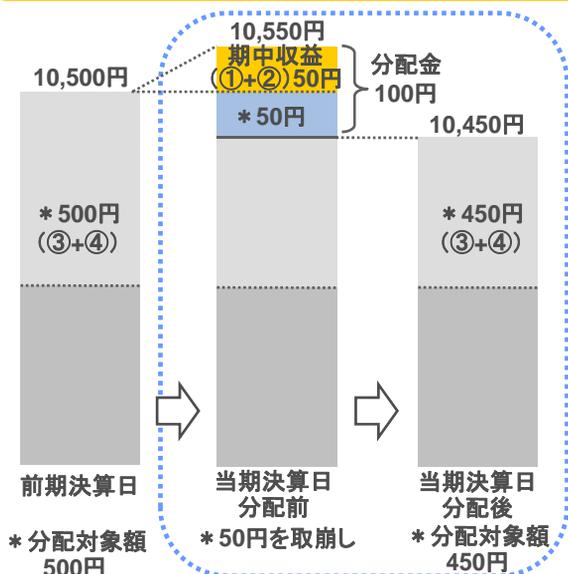


- 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

前期決算から基準価額が上昇した場合

前期決算から基準価額が下落した場合

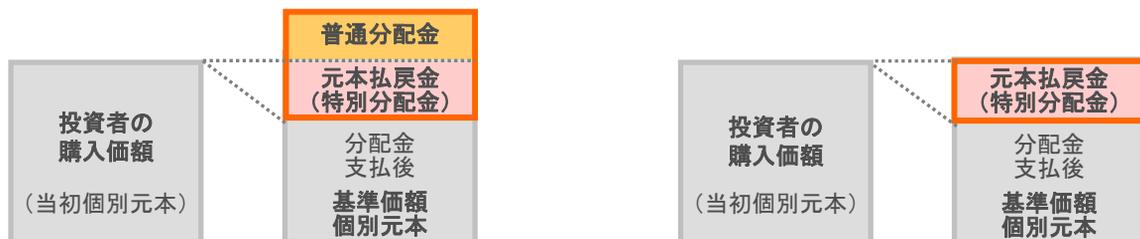


(注)分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③分配準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。
※上記はイメージであり、将来の分配金の支払いおよび金額ならびに基準価額について示唆、保証するものではありません。

- 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりがかつた場合も同様です。

分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合

分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



※元本払戻金(特別分配金)は実質的に元本の一部払戻しとみなされ、その金額だけ個別元本が減少します。また、元本払戻金(特別分配金)部分は非課税扱いとなります。

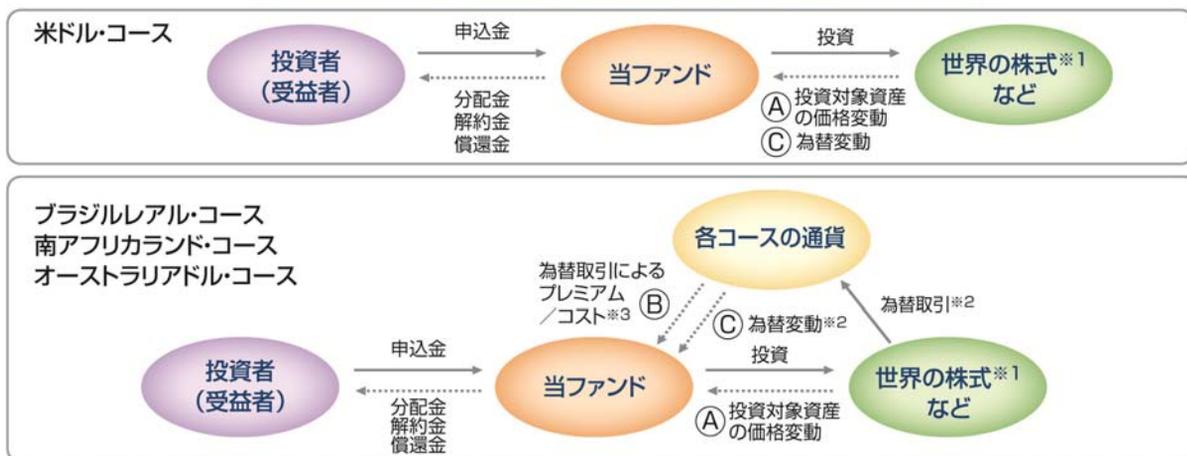
普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。
元本払戻金(特別分配金) : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の額だけ減少します。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

通貨選択型ファンドの収益に関する留意事項

- 通貨選択型の投資信託は、投資対象資産(株式や債券など)の運用に加えて、為替取引による通貨の運用も行っており、為替取引の対象となる通貨を選択することができます。

通貨選択型の投資信託のイメージ図



※1 当ファンドは、外国投資信託を通じて世界の株式に投資を行いません。

※2 各コースの通貨と円の為替変動リスクがあります。

※3 為替取引によるプレミアム/コストは、為替取引を行なう通貨間の金利差相当分の収益/費用です。

- 通貨選択型の投資信託の収益源としては、以下の3つの要素が挙げられます。なお、収益源である3つの要素にはリスクが内在しています。詳しくは、「リスク情報」をご覧ください。

収益の源泉		=	(A) 株価の値上がり/値下がり	+	(B) 為替ヘッジプレミアム/コスト	+	(C) 為替差益/差損
米ドル・コース	収益を得られるケース		株価の上昇*		為替ヘッジを行なわないのでありません。		為替差益の発生 原資産通貨に対して 円安
	損失やコストが発生するケース		株価の下落*			為替差損の発生 原資産通貨に対して 円高	
収益の源泉		=	(A) 株価の値上がり/値下がり	+	(B) 為替取引によるプレミアム/コスト	+	(C) 為替差益/差損
ブラジルリアル・コース 南アフリカランド・コース オーストラリアドル・コース	収益を得られるケース		株価の上昇*		プレミアム(金利差相当分の収益)の発生 各コースの通貨の金利 - 米ドル金利が プラス		為替差益の発生 各コースの通貨に対して 円安
	損失やコストが発生するケース		株価の下落*		コスト(金利差相当分の費用)の発生 各コースの通貨の金利 - 米ドル金利が マイナス		為替差損の発生 各コースの通貨に対して 円高

*ADRに投資する場合、ADRの価格には、当該現地株式の通貨に対する米ドルの変動が含まれます。そのため、当該現地株式の通貨に対して米ドル安であれば、株価上昇要因、当該現地株式の通貨に対して米ドル高であれば、株価下落要因となります。

※市況動向によっては、上記の通りにならない場合があります。

通貨運用に関する留意事項

- 各通貨の運用に当たっては、直物為替先渡取引(NDF取引)を活用する場合があります。
- NDF取引とは、投資対象通貨を用いた受渡を行わず、主に米ドル等による差金決済のみを行なう取引のことを言います。
- NDF取引では、需給や規制などの影響により、為替取引によるプレミアム(金利差相当分の収益)/コスト(金利差相当分の費用)が、短期金利から算出される理論上の水準から乖離する場合があります。そのため、想定している投資成果が得られない可能性があります。
- 為替取引には、為替ヘッジ(原資産通貨を売り、円を買う取引)が含まれています。為替ヘッジの場合、「為替取引によるプレミアム/コスト」を「為替ヘッジプレミアム/コスト」といいます。

■ 当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■ 掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

ファンドの特色

1. 主として世界の資源株に投資を行ない、中長期的な値上がり益の獲得をめざします。
 2. 「ブラジルリアル・コース」「南アフリカランド・コース」「オーストラリアドル・コース」「米ドル・コース」の4つのコースがあります。
 3. 毎月、収益分配を行なうことをめざします。
※ 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定しますが、委託会社の判断により分配金額を変更する場合や分配を行なわない場合もあります。
- 市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行なえない場合があります。

お申込みに際しての留意事項

■リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様
に帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式(預託証券を含みます。以下同じ。)を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】【流動性リスク】【信用リスク】【為替変動リスク】【カントリー・リスク】

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

■その他の留意事項

- 当資料は、投資者の皆様は「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めていただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定(いわゆるクーリング・オフ)の適用はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- 投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様は帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書(交付目論見書)などを販売会社よりお渡しますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身で判断ください。

委託会社、その他関係法人

- 委託会社 日興アセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第368号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、日本証券業協会
- 受託会社 三井住友信託銀行株式会社(再信託受託会社: 日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社)
- 販売会社 販売会社については下記にお問い合わせください。
日興アセットマネジメント株式会社
[ホームページ] <http://www.nikkoam.com/>
[コールセンター] 0120-25-1404 (午前9時~午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人日本投資顧問業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
野村證券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長(金商)第142号	○	○	○	○
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長(登金)第649号	○	○	○	

(50音順、資料作成日現在)

お申込メモ

- 商品分類 追加型投信/内外/株式
- ご購入単位 購入単位につきましては、販売会社または委託会社の照会先にお問い合わせください。
- ご購入価額 購入申込受付日の翌営業日の基準価額
- ご購入不可日 購入申込日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に当たる場合は、購入のお申込みの受付(スイッチングを含みます。)は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 信託期間 【ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース】
2024年6月17日まで(2009年11月20日設定)
【米ドル・コース】
2024年6月17日まで(2013年9月18日設定)
- 決算日 毎月17日(休業日の場合は翌営業日)
- ご換金不可日 換金請求日がニューヨーク証券取引所の休業日またはニューヨークの銀行休業日に当たる場合は、換金請求の受付(スイッチングを含みます。)は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- ご換金代金のお支払い 原則として、換金請求受付日から起算して7営業日目からお支払いします。

■当資料は、投資者の皆様へ「資源株ファンド 通貨選択シリーズ<ブラジルリアル・コース><南アフリカランド・コース><オーストラリアドル・コース><米ドル・コース>(毎月分配型)」へのご理解を高めいただくことを目的として、日興アセットマネジメントが作成した販売用資料です。■掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動や運用成果などを保証するものではありません。

手数料等の概要

お客様には、以下の費用をご負担いただきます。

<お申込時、ご換金時に直接ご負担いただく費用>

購入時手数料 購入時手数料率(スイッチングの際の購入時手数料率を含みます。)は、3.78%(税抜3.5%)を上限として販売会社が定める率とします。
※分配金再投資コースの場合、収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。

換金手数料 ありません。

信託財産留保額 ありません。

※販売会社によっては、スイッチングが行なえない場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

信託報酬 純資産総額に対して年率1.79%(税抜1.71%)程度を乗じて得た額が実質的な信託報酬となります。受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。
詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

その他費用 【ブラジルリアル・コース/南アフリカランド・コース/オーストラリアドル・コース】
目論見書などの作成・交付にかかる費用および監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。

※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

【米ドル・コース】
目論見書などの作成・交付および計理等の業務にかかる費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入有価証券の売買委託手数料、借入金の利息および立替金の利息などについては、その都度、信託財産から支払われます。

※組入有価証券の売買委託手数料などは、運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを示すことはできません。

※ 当ファンドの手数料などの合計額については、投資者の皆様がファンドを保有される期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

※ 詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。